

〔博士論文紹介〕 日本人学生の中国人留学生との友人関係形成に関する研究：  
親密化のプロセスと異文化受容態度の変容

メタデータ	言語: ja 出版者: 武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所 公開日: 2024-03-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 張, 銀暁 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000192">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000192</a>

〔博士論文紹介〕

# 日本人学生の中国人留学生との 友人関係形成に関する研究

—親密化のプロセスと異文化受容態度の変容—

張 銀 暁

学位取得年月 : 令和5 (2023) 年9月

取得学位名 : 博士 (文学)

学位授与機関名 : 武蔵野大学

キーワード : 日本人学生、中国人留学生、留学生交流、親密化のプロセス、異文化受容態度

## 要旨

日本国内のグローバル化の推進や日本社会の少子高齢化の問題がクローズアップされる中、言語や文化が異なる人々との共生は、日本社会で生活する誰もが経験しうる課題といっても過言ではない。特に、今後の日本社会を担う日本人学生たちにとって、外国人を始めとして異なる文化的背景を持つ人々との間の差異を認めながら相手と友好的関係を構築することがますます重要になっていると考えられる。そこで本研究は、(1) 日本人学生の中で留学生と親密な友人関係が構築できている学生に注目し、日本人学生は留学生とどのようなプロセスで関係を深め親密な友人関係を構築したのかという親密化のプロセス、(2) 親密な友人関係を構築し維持した経験をめぐって、日本人学生は、文化的差異をどのように認識し意味づけてきたのか、また異文化に対して自分の行動をどのように調整し受け容れてきたのかという異文化受容態度の変容過程を明らかにすることをめざした。具体的には、まず、【研究1】では、日本人学生の視点から留学生との友人関係の親密化のプロセスについて検討した。その次の段階の【研究2】では、異文化間の親密な友人関係の過程における異文化に対する態度に注目し、日本人学生の異文化受容態度の変容過程について検討した。本研究は、特に日本の留学生の約6割を占め、日本人学生と接触機会が多い中国人留学生の親密な友人を持つ日本人学生を対象とした。

【研究1】では、日本人学生の中国人留学生と親密な友人関係を構築するプロセスを明らかにすることを目的とした。具体的には、まず、中国人留学生の親密な友人がいる日本人学生5名に対して、中国人留学生との友人関係の構築過程において、どのような行動をとったのか、どのような感情を伴ったのかについて質問した。そして、インタビューで得られたデータは複

線径路・等至性モデル（以下 TEM）を用いて分析し、結果図を作成した。その結果、TEM 図によって、日本人学生は、中国人留学生との大学キャンパス内で相手と出会ってから双方向の交流ができるように模索する時期、行動様式の差異に違和感を持ちながらもキャンパス内で共行動をする時期、キャンパス以外で行動を共にしてプライベートな話をしながら相性や価値観などを確認する時期、文化的差異による葛藤が生じた時に相手との直接的な交流を通じて自文化の行動様式を内省する時期、文化的差異を尊重し理解したうえで友人関係を形成および維持する時期という5つの時期からなる親密化過程を提示することができた。この結果から、日本人学生は中国人留学生とクラスやサークル内などでの交流から、大学キャンパス内での交流、大学キャンパス以外での交流へとその交流の場が移行するに伴い、相手と親密な友人関係を構築することが確認できた。

【研究1】に続く研究として、【研究2】は異文化間の友人関係の親密化のプロセスにおいて、日本人学生の異文化受容態度の変容について検討した。具体的には、中国人留学生の親密な友人がいる日本人学生10名に対して、中国人留学生との親密な友人関係の構築過程、また構築過程における自他文化の差異をどのように認知するか、認知された差異に対してどのように考え対応するかなどについて半構造化インタビューを行った。得られたデータは修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下 M-GTA）を用いて分析を行い、日本人学生の中国留学生との友人関係の構築過程における異文化に対する態度がどのように変容するかというプロセスをモデル化した。その結果、M-GTAの結果図が示されたように、まず、日本人学生には、中国人留学生と接触する前に、異文化に対して逃避と憧れの2つの異なる態度があることがうかがわれた。次に、中国人留学生との親密な接触をする中で、日本人学生の異文化受容態度が、【文化的差異の認知】【文化的差異の解釈】【文化的差異の受容】の3つの段階で変化することを示した。最終的には、この3つの段階を経て、日本国内の外国人に対する好意的な態度への変化や、相手の母国などの海外への興味関心が拡大することが確認でき、好意的かつ積極的な異文化受容態度を獲得する過程を実証的に示すことができた。

本研究の最終成果として、【研究1】「日本人学生の中国人留学生との親密化のプロセス」と【研究2】「日本人学生の中国人留学生との親密化のプロセスにおける異文化受容態度の変容」を統合し、視覚的なモデルを提示した。このモデルの特徴は、日本人学生の中国人留学生との親密化のプロセスに注目しつつ、同一個人の内部的変化にも注目する点である。日本人学生が中国人留学生と親密化することによって、文化的差異に対する気づきを得て肯定的な意味づけをし、さらに文化的差異に対する抵抗感を緩和し、自分の受け止め方を調整し、受容へと変化することが確認できた。日本人学生と留学生との出会いは、友人関係構築の起点である同時に、異文化に対する態度への変化の起点であること、日本人学生は留学生との友人関係形成によって、文化的差異をより深く理解し、異文化受容態度を獲得することにつながるということがわかった。本研究におけるモデルは、日本人学生と中国人留学生が友人関係を構築する際に、文化的差異への捉え方がプロセスの前進や後退の原動力となることを示している。すなわち、円滑な対人関係は異文化を学ぶ最終成果物であるだけでなく、推進力にもなると考えられる。